

「職員さんによる”気づき”」

豊丸産業株式会社

未来事業室では、「トレパチ！」の持つトレーニング要素が、認知症の予防や認知機能の維持・向上にどのように作用するのか、この2月より名古屋市内の複数の老人福祉施設にて検証活動を実施しています。

検証活動を行う上で、施設様に様々なご協力をいただいているが、施設職員さんによる「気づき」は、数値や統計データには表れないものの、福祉現場に直接携わる方々の生の意見として、きわめて重要なと考えています。

ここでは、検証開始後の1ヶ月の間に、特養の職員さんから届けられた「気づき」の声の一部を以下にご紹介します。

■ 頻繁にトイレへ行く利用者様

普段は1時間ごとにトイレに行かれる利用者様が、「トレパチ！」で遊んでいると、3時間以上もトイレに行かず、粗相もない。泌尿器科で処方された薬を飲んでも調整が効かなかったが、「トレパチ！」に集中することで、トイレへの執着がなくなったのでは！？

■ 帰宅願望のある利用者様

「夕暮れ症候群」とおぼしき利用者様について、「トレパチ！」を遊技するようになってからは、夕暮れ時にエレベーター前に張り付く行動がなくなり、帰宅願望が現れてる素振りが見えなくなった。多忙となる夕方は、こうした不穏状態に陥った利用者様へのケアがどうしても疎かになりがちであるため、職員としても非常に助かっている。

■ 問題行動を起こす利用者様

モノにあたる、モノを投げる、暴力を振るうなど、問題行動が見られた利用者様が「トレパチ！」を遊技するようになって以来、こうした傾向が一気に弱まった。

(裏面に続く…)

■ 意欲低下が顕著だった利用者様

何に対しても興味を示さず、ただボーッとして一日を過ごしているだけだった利用者様が、「トレパチ！」にすごく興味を示し、笑顔を見せるようになった。これまで、職員が何をやっても見られなかった反応が現れ、職員もみな驚いている。

■ 離床する機会が増えた

これまで一日のほとんどをベッドの上で過ごされていた利用者様が、「トレパチ！」に興味を持ち始めて、ちょくちょく遊んでいる。結果的に離床したり移動する機会が増え、体を動かす頻度が増えた。

■ コミュニケーションが生まれる

1台と2台とに分けて「トレパチ！」を設置しているが、1台の方はお一人様向けの傾向がやや強い。2台の方は、遊技している利用者様同士だけではなく、他の利用者様がその様子を見に集まつてくるようでおしゃべりなども交えて賑やかな雰囲気がある。

■ 運動機能強化型トレパチ！

認知機能の低下により、ゲーム性を理解できていないということも考えられるが、「トレパチ！」からの音が聞こえず、ボタン連打や目押しもされない利用者様がみえる。とはいえ特養では、身体機能維持の一環としてごく簡単な運動を行うことも非常に大切なことで、ごくごく簡単なゲーム性に加え、運動機能の強化に繋がる「改良型トレパチ！」が開発されると、非常に有効だと思う。

【ご協力いただいている福祉施設様】



特別養護老人ホーム なごやかハウス神宮寺 様



高橋 佳示 主任